

「あなぐらさん」 古屋の谷のお話

昔、古屋の谷の「だいた」というところに「あなぐらさん」という小さな瓦のお宮がありました。

その「あなぐらさん」は、とても親切で、よくお願いを聞いてくれたそうです。昔はお金もあまりなかったので、お茶わんやお膳なども買うことができなく、大勢のお客さんなどが来た時には、大変困っていたのだそうです。でも、その「あなぐらさん」に「明日は二十人のお客があるのですが、お膳を二十枚貸してください。」

と、お願いしておくとお膳を「あなぐらさん」の前へ出してきていたそうです。このようにお茶わんが欲しい時、塗り茶わんが欲しい時、何でもお願いしたことは、きちんと出して貸してくれました。

ある人が、借りたお茶わんを誤って一つ割ってしまいました。でも、一つだからと思って、黙って返しました。すると、それからというものは、いくらお願いしても聞いてくれなくなりました。

それで、誰もそのお宮を祭らなくなっていたところ、近くに
信心なおばあさんがいました。その息子さんが足が痛くなった
ので、おばあさんが「足が良くなりますように。」と神様にお祈
りしていると、あなぐらさんが出てきて、

「おばあさん、私を、祭ってくれる人がいないので、あなたの家
で祭ってください」

と言いました。

あなぐらさんから頼まれたおばあさんは、すぐにそのお宮を
祭りだしました。すると息子さんの足の痛みもとれました。

今でも、小さな瓦のお宮が、その家に祭られています。そして
そのおばあさんもまだ元気です。